

平成30年度  
1.17  
防災未来賞

# ぼうさい甲子園

## 表彰式・発表会

プログラム



### 学ぶ つながる 命を守る力

阪神・淡路大震災の経験を通して学んだ自然の驚異や生命の尊さ、ともに生きることの大切さを考える「ぼうさい教育」を推進し、未来に向け安全で安心な社会をつくる一助とします。児童・生徒・学生や団体が学校や地域において主体的に取り組む、「ぼうさい教育」に関する先進的な活動を顕彰します。

開催日時

平成31年

1月13日(日)

13:00

16:00

会場

兵庫県公館

(神戸市中央区下山手通4-4-1)

プログラム

13:00	開 会 オープニングステージ	● 受賞校によるダンス等のパフォーマンス
13:20	開会のことば 主催者あいさつ	● 河田 恵昭 (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長 ● 井戸 敏三 兵庫県知事 ● 砂間 裕之 毎日新聞大阪本社編集局長
13:35	表 彰 式	● 1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」表彰 (グランプリ・ぼうさい大賞、優秀賞、奨励賞、はばタン賞、だいじょうぶ賞、津波ぼうさい賞、教科アイデア賞、フロンティア賞、継続こそ力賞) ● 防災力強化県民運動ポスターコンクール表彰 (ひょうご安全の日推進県民会議会長賞、人と防災未来センター長賞)
14:20	発 表 会	● 1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」受賞校・団体による活動発表 司会:兵庫県立尼崎小田高等学校 放送部
15:50	講 評	● 河田 恵昭 (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長
16:00	閉 会	

1.17は忘れない



1.17  
防災未来賞

# ぼうさい甲子園



中学生  
部門

高知県 / 四万十町立興津中学校

グランプリ

全校9名 宿命(津波)に挑戦!  
～正しく、冷静に恐れよう～

全校生徒9人。一昨年度の「津波ぼうさい賞」、昨年度の「奨励賞」に続き、今回は初の最高賞に輝いた。地域のお年寄りが南海トラフ巨大地震による津波からの避難をあきらめていると知り、逃げてもらおうと考えた実践的な取り組みが高く評価された。

学校がある興津地区は同地震で最大15mの大津波が想定されている。生徒たちが昨年度、お年寄りから昭和南海地震(1946年)の体験を聞き取っていると「死を覚悟している」という人がいた。地震後すぐに津波に襲われると考えていた。

衝撃を受けた生徒たちは今年度、四万十町のデータなどを基に同地区への津波到達予測時間を丁寧に調べた。すると、10分以上の「猶予」があり、避難が可能だと分かった。

「津波が来るまでの時間を周知すれば、緊迫感だけでなく「心の余裕」も与えられるのでは」と考え、海拔ではなく到達予測時間を示す表示板を作成。時間別に赤や黄などに色分けし、地区内の目立つ場所を選んで約50枚を張った。



津波到達の予想時間を示した表示板を張る興津中の生徒たち

小学生  
部門

徳島県 / 阿南市立津乃峰小学校

絆をつくり 地域と共に命を守る  
つのみね子ども防災リーダー

リアス式海岸に面し、南海トラフ巨大地震が発生すると校区のほぼ全域が津波による浸水被害に遭うと想定される。抜き打ちの避難訓練や、バスを避難場所に見立てた親子宿泊体験、全ての教科に防災の視点を取り入れた「クロスカリキュラム」など、津波から児童全員の命を守るための取り組みを徹底している。

児童が学校にいる時間は1年間の5分の1程度しかなく、校外にいる時に津波に遭う可能性も高い。そんな場合でも適切に避難できるよう、校区内の高所を回る「避難所巡りウォークラリー」を開催。また、活動を校内だけにしないためにも、今年度は家庭防災新聞「ブリッジ」を毎月発行し、地域全体での防災意識向上に一役買っている。



抜き打ちの避難訓練で校庭に避難する津乃峰小の児童たち

高校生  
部門

兵庫県 / 兵庫県立山崎高等学校

地域に広げる防災・減災活動 ～自ら学び、地域に発信～

昨年度に続くぼうさい大賞受賞。学校は「山崎新屋」の上であり、いつ大地震に襲われてもおかしくない。7年前から生活創造科2年の生徒らが中心となり、炊き出しや応急手当体験など防災イベントを企画・運営する。生徒自身で主体的に防災について学ぶ取り組みを続けている。

今年1月には災害時の動き方や防災の知識をまとめた防災ガイドブックを作成。校区内の230世帯に配布した。また地元企業と連携し、特産品の「播磨乃糸」を使った非常食の研究など地域との交流にも力を入れる。

今年度からは、森林環境科学科の生徒も防災イベントで仮設住宅の設置体験を計画するなど、取り組みは学校全体に広がっている。



三角市で応急手当の訓練をする山崎高の生徒たち

大学生  
部門

大阪府 / 関西大学社会安全学部 近藤誠司研究室

ローカルメディアを活用した地域防災・防災学習支援プロジェクト

近藤誠司・准教授が担当する「災害情報論／災害ジャーナリズム論」のゼミ。テレビやラジオ、新聞、校内放送、写真集、インターネットなどあらゆるメディアを駆使し、各地の地域防災や防災学習を支援する。現在、学生32人が所属し、18のプロジェクトが進行中。活動を一過性にしないため、全てが継続中だ。

活動エリアは、阪神大震災や東日本大震災、熊本地震などの被災地のほか、学生の出身地など全国各地に及ぶ。高齢化率が8割に達する山間集落にも通い、土砂災害警戒区域の地域防災活動を支援する。

今年度は防災版学校だより「ぼうさいタイムズ」の多言語化に挑戦するなど、さらに活動の幅を広げている。



西日本豪雨の被災地、京都府京丹波町でボランティア活動をする近藤研の学生たち

# 表彰式・発表会

## 受賞校・団体活動紹介

優秀賞

小学生部門

### 愛知県/西尾市立一色中部小学校

自他を思いやり、人とのつながりを求め、築く子どもの育成

高学年が低学年を導く避難訓練。地域・自治体の方、家庭、被災経験者と連携、交流する防災学習。学年を超えたつながりが構築できる6色の縦割り班による活動を行った。防災リーダーとしての自覚が育ってきた。

高校生部門

### 岩手県/岩手県立大槌高等学校 復興研究会

地域と連携した生徒主体の復興の記録と震災の伝承による防災活動

大槌町内180カ所を年3回写真で記録する定点観測は、今年5月までに16回となった。撮り続けることで町の復興の記録となっている。大槌町と連携し、震災の記憶の伝承活動や町作りの提言活動、防災訓練等を行っている。

小学生部門

### 埼玉県/埼玉県立日高特別支援学校

自分を守るためにみんなで手をつなごうかわせみ防災タイム

避難所について学習し、避難所生活で協力できることや、よりよい避難所になるために必要なものを考えた。意見をまとめ日高中に伝えたり、文化祭や地域のイベントでポスター発表を行ったりした。

中学生部門

### 宮城県/気仙沼市立階上中学校

地域や大学と連携した新たな防災学習の展開

地域住民へのアンケート調査とその考察、地域住民や市民へ結果を周知し、災害を風化させない、防災意識の持続化を図っている。防災の基盤である「自助」の重要性について、中学生が地区住民と共有することができた。

高校生部門

### 和歌山県/和歌山県立熊野高等学校

Kumanoサポーターズリーダー部

ハートフルアクション ～台湾災害復興支援と心臓蘇生ダンス～

今年度は、心臓蘇生ダンスを開発、ダンスの普及活動や、毎年1回上富田町と合同で防災訓練を行っている。高齢者の安否確認ハートフルチェックボランティアは、火曜日の放課後行っており、年間300軒近く訪問している。

大学生部門

### 愛知県/愛知工科大学 板宮研究室

AR/VRを活用した災害疑似体験による防災教育・啓発

AR/VR災害疑似体験アプリの研究開発を行い、防災訓練等で実用している。既存の教材と組み合わせた新たな防災教育手法の効果を検証中。昨年10月から1年間で42回体験展示を行い、今までに約1万4千人が体験した。

中学生部門

### 徳島県/徳島市津田中学校 防災学習倶楽部

絆を深め、地域と共に歩む防災教育

「南海トラフ巨大地震発生後の事前復興街づくり案」をテーマとし、復興街づくりの具体的な案を地域と一緒に考え、一つの形にすることに取り組んでいる。避難路のブロック幅調査を行い、ブロックの危険性も訴えた。

大学生部門

### 静岡県/静岡大学教育学部 藤井基貴研究室

教職を目指す学生が推進する「考える防災」の開発・実践・普及

「防災道徳」授業を考案し、現職教員と協働して「考える防災」をテーマに授業改善・普及に取り組む。イラスト教材、防災紙芝居、防災絵本などを開発し、授業パッケージを現場に提供し、活動への参加者は16,000名を超えた。

小学生部門

### 愛知県/半田市立亀崎小学校

自他の命を大切に作る心の育成～ESD(防災)活動を通して～

防災キャンプの会場を亀崎公民館とし、地域との連携を深めつつ、実践的な避難所体験を行った。また、避難所札・要救助札を作成し、亀崎4000世帯に配付し、地域への防災啓発を行い、家庭や地域へ啓発することができた。

中学生部門

### 新潟県/燕市立小池中学校

糸半(いとはん)プロジェクトによる地域と連携した合同防災訓練

地域とのつながりを深める活動として合同防災訓練を授え、お年寄りとの活動から地域の企業との活動へと広がっている。糸半プロジェクトでは、クリーン作戦、お年寄り訪問、糸半朝会、工場の祭典ボランティア等を行う。

高校生部門

### 徳島県/徳島県立那賀高等学校 防災クラブ

「共創郷音IV」～学校が地域の拠点で防災基地～

地域の方を招いた「防災食づくり講習会」と「防災食レシピ集」の作成及び配付を行った。「避難確認シール」の作成や配付、「防災食レシピ集」の作成から、防災意識が深まり、積極的な地域貢献への意欲に繋がっている。

奨励賞

## 特別賞

### はばタン賞

阪神・淡路大震災以降に被災した地域にエールを送るため、これら地域を対象に被災の経験と教訓から生まれた優れた活動に贈られます。

17は忘れな



小学生部門

### 宮城県/石巻市立広瀬小学校

未来につなごう 私たちの町・広瀬

学習参観日等を利用して、親子で一緒に防災手帳づくりや危険箇所マップづくりに取り組んだ。「防災だより」やHP等で活動を伝え、保護者や地域の方々に本校の防災教育についての理解を深め、防災意識が高まった。

中学生部門

### 熊本県/南阿蘇村立南阿蘇中学校

震災の教訓をいかし、復興と共に防災教育の充実を図る

生徒を避難所運営ゲーム(HUG)のカードに見立てて行う避難所運営訓練(リアルHUG)、9教科の防災教育基礎講座に取り組んでいる。避難所等でのボランティア活動を踏まえて学習を行うことで、より実践的な学習となる。

## だいじょうぶ賞

安心・安全なまちづくりを目指す「だいじょうぶ」キャンペーン実行委員会にちなんだ賞。防犯や街の身近な安全や、安心・安全なまちづくりを目指す優れた活動に贈られます。

高校生部門

### 千葉県/千葉県立東金特別支援学校

あたりまえ防災で災害に強いまちづくり

児童生徒による「あたりまえ防災隊」を中心として、自発的に防災活動に取り組む。「あたりまえ防災II～ぼくらの合い言葉～」の映像化、防災教育動画の配信を行っている。地域の人に広く知ってもらえるようになった。

高校生部門

### 兵庫県/兵庫県立尼崎小田高等学校

普通科 看護医療・健康類型

減災・縮災 学校が地域の「ハブ」になる 高校生にできること

災害に関する研究活動・学習として、特に災害時要援護者の支援について、高校生に何が出来るのかを考え、取り組んでいる。災害に関するイベントの企画立案・運営、地域社会への啓発活動を行っている。

大学生部門

### 東京都/中央大学ボランティアセンター公認学生団体 チーム防災

大学生だからできる、みんなでつながる楽しい、日野の地域防災

東京都日野市内の様々な地区の小中高校や自治会等での防災ゲームの実施やサポートおよび防災訓練に参加している。また、オリジナル防災ゲームやワークを用いた、学内や外部での防災自主企画や防災授業を実施した。

## 津波ぼうさい賞 津波避難訓練や津波対策に対する優れた取り組みに贈られる賞です。

**小学生部門** 千葉県/千葉県立長生特別支援学校  
**「ラップ」防災」全国発信!～日常とつながりによる防災学習～**  
 小学部で「ラップ」防災」を作り、全国発信に向けて取り組んでいる。楽しく主体的に取り組む姿が、保護者や学校、地域の防災意識を高めている。訓練の積み重ねにより、身を守ること等は子どもたちの心と体に染み付いている。

**高校生部門** 静岡県/静岡県立吉田特別支援学校  
**つながり合い、学び合う防災学習**  
 学校所在地域の避難訓練に全校児童生徒で参加し、一緒に点呼を受けたり、防災体験を行った。また、スクールバス運行経路周辺の小中学校で訓練を行い、協力体制を確立できるようにした。

## 教科アイデア賞 教科教育において取り組まれた優れた防災教育活動に贈られる賞です。

**小学生部門** 山梨県/南アルプス市立白根源小学校  
**自ら学び、学び合う防災教育**  
 防災の授業、防災の体験学習、避難訓練を系統的に位置づけた学校独自の防災教育を実施している。防災は教えられるという意識から、自分で考え、判断することが大切であるという感想を持つ児童が多くなってきている。

**小学生部門** 高知県/高知県立山田養護学校  
**地域と連携した南海地震対策の推進～系統立てた実践と合同訓練～**  
 生活単元学習を中心に、国語の防災作品や国語の標語や習字、音楽等の各教科、学習発表会の避難訓練の劇や交流、防災ゲーム、運動会のバケツリレーの親子競技等、教育課程のあらゆる部分と横断的にリンクさせ実施した。

**高校生部門** 千葉県/千葉県立矢切特別支援学校  
**みんながわかるお天気学習～雲レーダーを活用した気象学習～**  
 「雲レーダー」情報を活用した、雨、気温、風等の気象に関する観察や記録、専門家による気象実験授業の取り組み、防災センターの体験・見学を実施したりした。「主体的な避難行動」への意識を育てることに繋がっている。

## フロンティア賞 過去に受賞がなかった地域・分野での先導的な取り組みまたは初応募の優れた取り組みに贈られる賞です。

**小学生部門** 兵庫県/神戸市立真陽小学校 見て聞いて委員会  
**校内放送を活用した持続的な防災学習プロジェクト**  
 お昼休みの校内放送を活用した防災学習を5年間継続している。校内防災放送の意見を各家庭に届ける防災板学校だよりの作成・配布も行った。取り組みの効果を測定した結果、防災意識の向上、知識の増強等につながった。

**中学生部門** 青森県/青森市立東中学校  
**地域と共に命を繋ぐ避難所運営訓練**  
 避難所運営訓練の避難所サイン(ピクトグラム)を生徒が製作し、多くの人々が安心して避難できる視覚伝達デザインを目的に、地域や社会との関わりを意識し取り組んでいた。地域の交流を深め互いに助け合う大切さを学んだ。

**中学生部門** 大阪府/堺市立金岡南中学校 理科部「防災研究班」  
**地域で学び、地域で生活する中学生が考える防災活動**  
 大阪北部地震の後、高槻市などを訪れボランティアを行った。また、台風21号の被害を理科の授業で校区内の1年全員に調査したものを参考に、復旧状況などを確認した。地域の催しに参加し、防災の意識の向上を訴えた。

**中学生部門** 鳥取県/松江市立島根中学校  
**自分の住む地域防災について地域の一員としてできる事を考える**  
 日本赤十字社の防災スクールに参加し、災害や防災について学び、非常食の炊き出しやリラクゼーションなどの体験を通して災害時の生活について考えた。地域の実態や課題を学び、地域の一員としての自覚が高まった。

**高校生部門** 大阪府/学校法人創価学園 関西創価高等学校  
**Prepare "Today" not "Tomorrow"**  
 なまずをモチーフにしたキャラクター「なまずん」を作成し、トイレや食堂に貼る4コマ漫画、災害時に役立つ音知識をまとめたライフハックビデオを作成した。オープンキャンパスのクイズや体験型コーナーで備えの大切さを伝えた。

**大学生部門** 兵庫県/学生支援団体tunagu  
**不登校支援の居場所づくり活動と地域防災ネットワークの構築**  
 不登校や発達障害等様々な理由で支援を必要としている子どもたちと料理や工作(避難所で使える段ボールイス、防災ホシエット、防災絵本の読み聞かせ等、安心して過ごすことのできる居場所づくり)の活動を主に行っている。

## 継続こそ力賞 過去数年に渡り継続的に実施された優れた取り組みに贈られる賞です。

**小学生部門** 愛知県/西尾市立白浜小学校  
**いのち輝く白浜っ子の育成～地域の特性を生かした防災教育**  
 年11回の地震・津波避難訓練、年2回の防災集会、6か年を見通した防災学習のカリキュラムを関係機関と協力し実践している。児童の「自分の命は自分で守る、自分たちの命は、自分たちでつなぐ」意識が高まってきた。

**中学生部門** 和歌山県/田辺市立新庄中学校  
**「防災劇」から「新庄地震学」へ(防災劇に視点を当てて)**  
 2年で「防災劇」を行い、ふるさとを誇りに思う気持ちや命の大切さ、災害に備える力、災害から生き抜く力を育んだ。地域の人々と交流し、地震学発表会、ラジオや地方新聞で広く地域に向けて防災を啓発することができた。



ぼうさい甲子園 QR



人と防災未来センター

### 問い合わせ先

ぼうさい甲子園事務局 (特非)さくらネット  
 〒662-0041 兵庫県西宮市末広町4-7  
 夙川レッチオレジデンツァ402  
 TEL:0798-23-3215 FAX:0798-23-3187  
 メール:bousai\_koushien@yahoo.co.jp

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構  
 人と防災未来センター事業部事業課  
 〒651-0073 兵庫県神戸市中央区臨浜海岸通  
 1-5-2 西館6階  
 TEL:078-262-5068 FAX:078-262-5082

- 主 催 兵庫県、毎日新聞社、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構(阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター)
- 後 援 内閣府、総務省消防庁、文部科学省、国土交通省、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、関西広域連合、ひょうご安全の日推進県民会議
- 協 賛 UR都市機構
- 事 務 局 (特非)さくらネット